

論文内容要旨

論文題名：自閉スペクトラム症者が障害者雇用として働くことを選択するプロセス

専攻領域名：精神障害リハビリテーションとケア領域

氏名：川畑啓

内容要旨

1. 緒言 日本において障害者雇用率制度は 1960 年から始まった. 先行研究より障害者にとって障害を開示する利点や欠点, 悩みが生じることは報告されているが, 自閉スペクトラム症者 (以下, ASD 者) がどのようなプロセスを経て障害を開示して働くことを決めるに至ったか調査されたものは見当たらない. ASD 者の障害者雇用として働くに至るまでの思いを明らかにすることを目的とする.

2. 研究方法 研究対象者は, 昭和大学附属烏山病院に通院中の方で ASD の診断を受けており, 言語的コミュニケーションが可能で, 同意取得時に障害者雇用として働いている方を対象とした. ASD と他の診断が重複している方は除外した. 面接はインタビューガイドを用いて実施した. 語られた内容は IC レコーダによる録音及び筆記により記録を行った. データの分析は質的帰納的分析を行った. 本研究は昭和大学保健医療学研究科人を対象とする研究等に関する倫理委員会の承認を得て実施した.

3. 結果 5 名のデータを分析し, 13 のサブカテゴリ, 8 のカテゴリ, 4 のコアカテゴリが生成された. コアカテゴリは【企業側から配慮が得られる】, 【置かれている状況と自分の能力との合致】, 【障害者雇用に関する個人的価値観】, 【後押しを受けながら就労へ向けて取り組む】にまとめられた.

4. 考察 ASD 者が障害者雇用として働くことを選択した理由として, 障害者雇用の基本的な条件となる【企業側から配慮が得られる】ことを求めていた. 過去の[苦労の経験]を振り返り[自分の能力との合致]させ, 自己理解を深め, [家族への配慮が不必要]と自身の周囲の状況も鑑み, 【置かれている状況と自分の能力との合致】した結果, 障害者雇用を選択していた. さらに, 【障害者雇用に関する個人的価値観】として, [障害者雇用の方が気楽]と本人の仕事に対する価値観や, [障害者であるため障害者雇用で働くのが筋]であると ASD 特有の思考認識も影響していた. 障害者雇用として働くにあたり, 〈体験就労を経験〉することで障害者雇用の働き方に対するイメージが作られ, 〈とりあえず行動してみる〉ことで[就労へ向けた行動]をとり, さらに〈支援者や支援機関からの働きかけ〉により【後押しを受けながら就労へ向けて取り組む】結果, 障害者雇用を選択していた. 支援者は本人の仕事に対する思いや価値を明らかにして, 納得して自己決定が出来るような関わりを持つことが重要であると考えられた.